

サビエル生誕五百年



巡礼の道

18

藤屋侃士
(下松市幸ヶ丘)

大道寺跡

山口市のサビエル記念聖堂は有名だが、そこから数分離れた所にあるサビエル記念碑とピリオン神父の胸像は

（ピリオン神父）
明治元年、ピリオン

神父は二十五歳で来日し、昭和七年、八十九歳で帰天するまで一度も祖国フランスに帰ることなく、近代日本キリスト教のために尽くした。

（大道寺跡）
サビエルは、見すばらしい姿で土産も持たずに京に上り、布教の許可を得るため天皇に謁見しようとしたが、かなわなかった。

戦いで荒廃した京での布教をあきらめ、上京の際に立ち寄った西の京山口での布教を決定する。

京での反省から領主大内義隆の謁見に際しては美しい祭服を着て、時計、鉄砲、ガラスの水差しなど十三品の土産を持参した。

義隆は大変喜び、返礼品も受け取らぬサビエルに好感を持ち「清らかな心を持っていることよ。館にせよ」と布教の許可だけでなく、宿舎まで与えた。その館が「大道寺」である。

先日、久しぶりにサビエル公園を訪ねた。夏休み、子供たちが野球をしていた。小さいながらもトイレがある。しかし、汚い。夏草が茂り、ピリオン神父の顔には鳥のふんがついており、それが涙に見えた。

そこで懸命に大道寺跡を捜し求めたが、陶の反乱による大火で、古文書は失われ、どうしても発見できなかった。

四年過ぎたある日、一人の老人が一枚の古い地図を持って来た。ふすまの下張りの中から見つけたもので、その大内時代の地図には大道寺があった。

除幕式は大正十五年十月十六日に開かれ、若槻総理大臣の祝辞に始まり、各国の大使も出席、その数は三百人を超えたという。



大正15年に建立されたサビエル記念碑



サビエル公園の片隅にあるピリオン神父の胸像

中でも、大内義隆がサビエルに与えた館、大道寺跡を見つけて出し、そこにサビエル記念碑を建立させたこと

が特筆される。先日、久しぶりにサビエル公園を訪ねた。夏休み、子供たちが野球をしていた。小さいながらもトイレがある。しかし、汚い。夏草が茂り、ピリオン神父の顔には鳥のふんがついており、それが涙に見えた。

そこで懸命に大道寺跡を捜し求めたが、陶の反乱による大火で、古文書は失われ、どうしても発見できなかった。

四年過ぎたある日、一人の老人が一枚の古い地図を持って来た。ふすまの下張りの中から見つけたもので、その大内時代の地図には大道寺があった。

除幕式は大正十五年十月十六日に開かれ、若槻総理大臣の祝辞に始まり、各国の大使も出席、その数は三百人を超えたという。

その後、ピリオン神父は奈良の教会に異動になる。神父の功績を賛えて胸像を作る話が起り、大森知事が発起人となって胸像が作

（元山口放送取締役ラジオ局長）